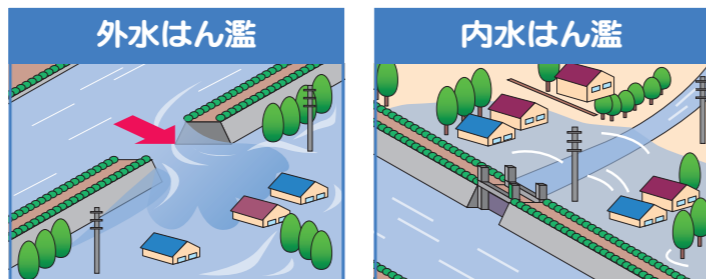


4.洪水災害への心得

4-1 外水はん濫と内水はん濫

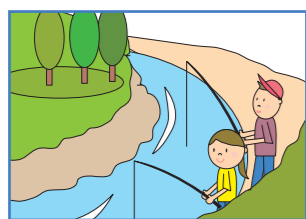
洪水には、川の堤防が壊れたり堤防から水が溢れたりして発生するはん濫(外水はん濫)と、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こるはん濫(内水はん濫)があります。

洪水の発生する仕組みを理解し、みなさんが住んでいる地域ではどのようなタイプの洪水が発生しやすいかを確認しておきましょう。



4-2 局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守る

近年、急激に発達した積乱雲に伴う局地的な大雨(ゲリラ豪雨)による痛ましい事故が起こっています。このような事故は、雨による災害への警戒・注意を促す大雨警報・注意報に至らないような雨量でも起こることがあります。



●川などでの釣りや水遊び



●河原や川の中州でのキャンプ、バーベキュー



●地下をくぐる形式の立体交差(アンダーパス)



●河川や下水道の工事現場

天気の変化に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください

☑チェックすべき事

- 天気予報** → 「大気の状態が不安定」「雷」「天気の急変」などの表現がある
- 警報や注意報** → 雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ている
- レーダーなどの観測情報** (携帯電話などで入手) → 周辺や上流で雨が降っている
- 空の状態** → 「急に真っ黒な雲が近づいてきた」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」
- 川の状態** → 「水かさが増えてきた」「濁ってきた」「流木や落ち葉が流れてきた」
- 警報装置** → サイレンの音が聞こえる
- 看板** → 「危険区域には立ち入らない」などの表現がある

!! こんな時は要注意

総雨量は少なくても、**十数分で甚大な被害が発生することがあります**

①危険を感じたら、ただちに避難!

遊んでいる子供たちや工事中の作業員は、周囲の状況の変化に気付きにくいいため、保護者や監督者は、危険を感じたら、すぐに避難を指示しましょう。

5.土砂災害への心得

5-1 土砂災害とは

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りの土砂災害危険箇所がこのタイプであるかを確認しておきましょう。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

土石流

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。

地すべり

大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだす現象です。

5-2 土砂災害の前ぶれ

※下記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を確認したら速やかに避難するとともに、日南市役所危機管理課(Tel.31-1125)へ連絡してください。

! こんなときは要注意		土砂災害の前ぶれ(前兆現象)		
五感	移動主体	がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)	土石流	地すべり
視	山・斜面・がけ	●がけに割れ目が見える。 ●がけから小石がバラバラと落ちる。 ●斜面がはらみだす。	●溪流付近の斜面が崩れだす。 ●落石が生じる。	●地面にひび割れができる。 ●地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする。
	水	●表面流が生じる。 ●がけから水が噴き出す。 ●湧水が濁りだす。	●川の水が異常に濁る。 ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 ●土砂の流出。	●沢や井戸の水が濁る。 ●斜面から水が噴き出す。 ●池や沼の水かさが増える。
覚	樹木	●樹木が傾く。	●濁水に流木が混じりだす。	●樹木が傾く。
	その他	—	●溪流内の火花。	●家や擁壁に亀裂が入る。 ●擁壁や電柱が傾く。
音	—	●樹木の根が切れる音がする。 ●樹木の揺れる音がする。 ●地鳴りがする。	●樹木の根が切れる音がする。 ●樹木の揺れる音がする。 ●地鳴りがする。	●樹木の根が切れる音がする。
		におい	●腐った土のにおいがする。	—

《少しでも身に危険を感じたら速やかに避難しましょう》

5-3 土砂災害の心構え

「●●危険箇所看板」は要注意
土砂災害が発生するおそれのある区域内には、「●●危険箇所看板」がたっていることがあります。自分の家の近くにないか注意して見ておきましょう。

危険な箇所は調べておこう
防災マップなどで日頃からどこが危険か、避難場所はどこか、確認しておきましょう。

避難の道順を決めておく
避難する道に危険な場所がないか、日頃から調べておきましょう(P15参照)。